 **10月号**

**『啐啄』**瀬田中学校　校長　今井　弘樹

**☆彡**　10月12日（金）に生徒たちの自己表現の「場」=文化祭が閉じました。魅了・感動の表現の「場」となったことは「生徒の成長の証」と、生徒たち、保護者の皆さま、育ちの場を地域で支えて頂いている関係の皆さま、そして、指導や助言に文化祭に向け頑張ってくれた教職員の皆に感謝しています。

さて、今年の文化祭のテーマは「やってみよう！」。冒頭の生徒会名誉会長（校長）の挨拶では『見る前に跳んでいいのよ、恋も夢も仕事も！～セロには何をかけてもゼロ。はじめの一歩を踏み出してから、全部見えてくるのよ。失敗の武勇伝もまた、人生の宝』（加藤登紀子のひらり一言　2018/4/29）という加藤登紀子さんの言葉を思い出しながら生徒たちに呼びかけました。

**☆彡**　生徒たちにとって学校が、少しでもうまく自己表現できる場であってほしい。皆が認め合い肯定し合える場であってほしい。そうした場に瀬田中学校という**『』**が、今年1年間をかけて、生徒たちをはじめ保護者の方々、教職員等みんなで、様々な道のりを経て創られていくことを願っています。

19日（金）からは、1.2年生の秋の新人戦、23（火）体育大会、その後2年生職場体験、1年生校外学習と続き、3年生はいよいよ入試を通しての自己への本格的な挑戦です。

**☆彡**15日（月）に2年生の職場実習に向けて、事前指導（マナー講座）として綾羽高校高萩教頭先生を講師に迎え、お話を2年生全員で2時間の講義を受けました。その中で、私は『調理師を目指した生徒Ｋさん』の話が心に残っています。「１年以上皿洗いに一生懸命に取組んだ。次はキャベツの千切りと皿洗いの両方の仕事。なかなか認めてもらえない。自信がなくなり、辞めようと決意する。でも、厳しい料理長はＫさんの一生懸命の姿を見ていてくれた。・・・・**自分で評価はしない。真剣で一生懸命の姿は他人が評価してくれる。・**・・・料理長がＫさんの仕事に向かう姿勢を高く評価し、“一人前の料理人にしてやる”という思いを抱いてくれていることを先輩から知らされる。・・・・Ｋさんは感謝し、一生懸命に課題を克服しようと努力を続け、この料理長の下で修業を続ける・・・・」。

私たちもこの料理長さんのように、すべての子どもたちの頑張りをしっかり見つめ、そのことをきちんと評価し励まし支援することが大切なことをあらためて学び直しました。ちなみにＫさんは現在、結婚され京都でとても評判のお店を開いておられるそうです。

**☆彡**そうしたお話を2年生とともに聞かせてもらい、かつて教師として、大人としてどうすべきかと悩んでいた若い頃にベストセラーになった本を思い出しました。学級担任として、どのように生徒に接すればいいのか、悩みながら自分なりに実践していた時に出会った『子どもが育つ魔法の言葉』という書物です。以下の言葉は、この書物の冒頭の文章です。子どもの健やかな成長のためにとても大切なことを教えているように思います。私は「親」を「担任」、「家庭」を「学級」に置き換えて生徒たちに話をしていました。是非、参考になさってください。

|  |
| --- |
| 「幸せ イラスト」の画像検索結果　＜略＞　　　　励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる　広い心で接すれば、キレる子にはならない　 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ　愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ「幸せ イラスト」の画像検索結果　認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる　見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる　分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ　親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る　子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ　やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ　守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ　和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる　　（『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著 石井千春訳　ＰＨＰ研究所）  |